

東日本大震災被災地・ 小児医療の現状について

岩手県立大船渡病院小児科

瀧向透

いわき市立総合磐城共立病院小児科

鈴木潤

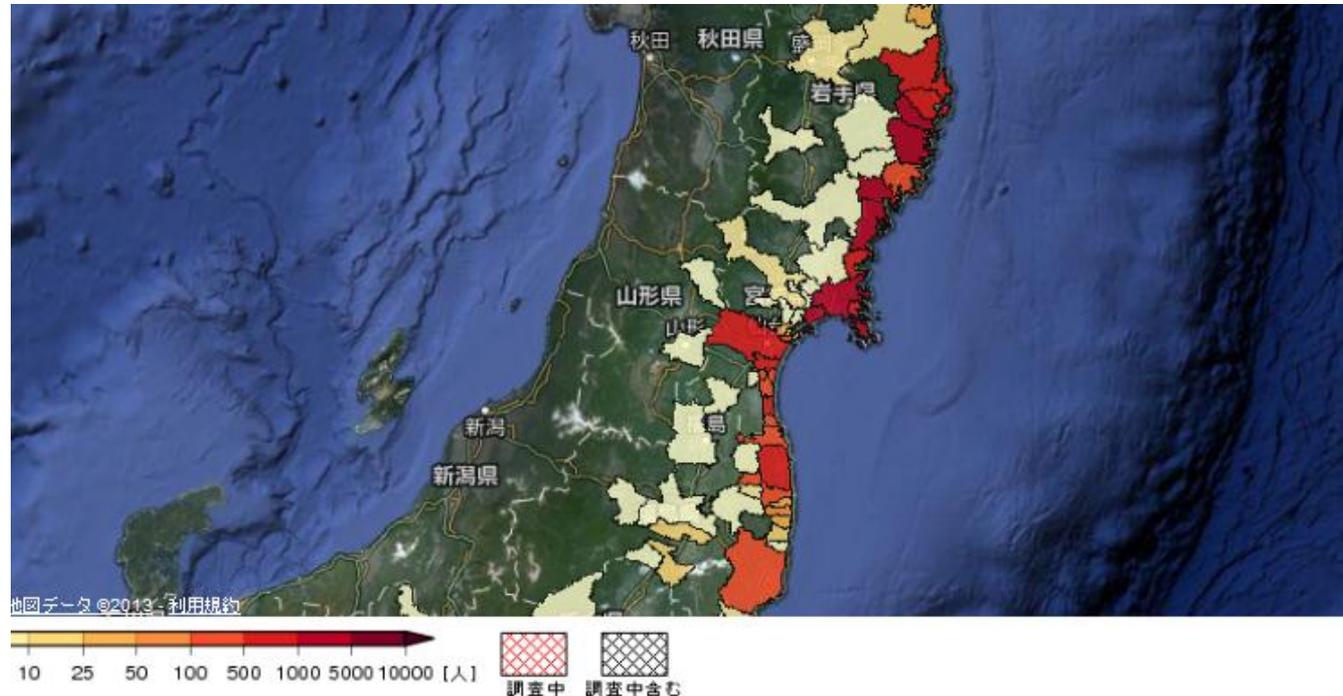
石巻赤十字病院小児科

伊藤健

東京都立小児総合医療センター救命・集中治療部 齊藤修

東日本大震災の特徴

- 少子化、高齢化に悩む過疎地を襲った大震災
 - 被害が広範囲
 - 津波被害
 - 原子力災害
- 2011年東北地方太平洋沖地震(第140報) 死者数+行方不明者数
http://www.j-risq.bosai.go.jp/ndis/ndis_wms.php?report=140



岩手県の場合



岩手県沿岸部・医療施設の被害状況 及び復旧状況【H25.2.1現在】



種別	既存	被災	再開			再開 見込	廃止 等	未定	復旧率 (%)
			自院	仮設	計				
病院	4	2	2		2				100.00
診療所	28	12	10	1	11		1		96.43

種別	既存	被災	再開			再開 見込	廃止 等	未定	復旧率 (%)
			自院	仮設	計				
病院	1	1		1	1				100.00
診療所	4	3		2	2		1		75.00

種別	既存	被災	再開			再開 見込	廃止 等	未定	復旧率 (%)
			自院	仮設	計				
病院	1	1		1	1				100.00
診療所	7	7	1	4	5		2		71.43

種別	既存	被災	再開			再開 見込	廃止 等	未定	復旧率 (%)
			自院	仮設	計				
病院	5	5	5		5				100.00
診療所	13	8	6	1	7		1		92.31

種別	既存	被災	再開			再開 見込	廃止 等	未定	復旧率 (%)
			自院	仮設	計				
病院	1	1	1		1				100.00
診療所	24	13	8	3	11		2		91.67

種別	既存	被災	再開			再開 見込	廃止 等	未定	復旧率 (%)
			自院	仮設	計				
病院	2	1		1	1				100.00
診療所	9	9	4	1	5		4		55.56

種別	既存	被災	再開			再開 見込	廃止 等	未定	復旧率 (%)
			自院	仮設	計				
病院	19	13	10	3	13	0	0	0	100.00
診療所	112	54	30	12	42	0	12	0	89.30

岩手県内の支援活動



岩手県医師会資料

岩手県医師会高田診療所

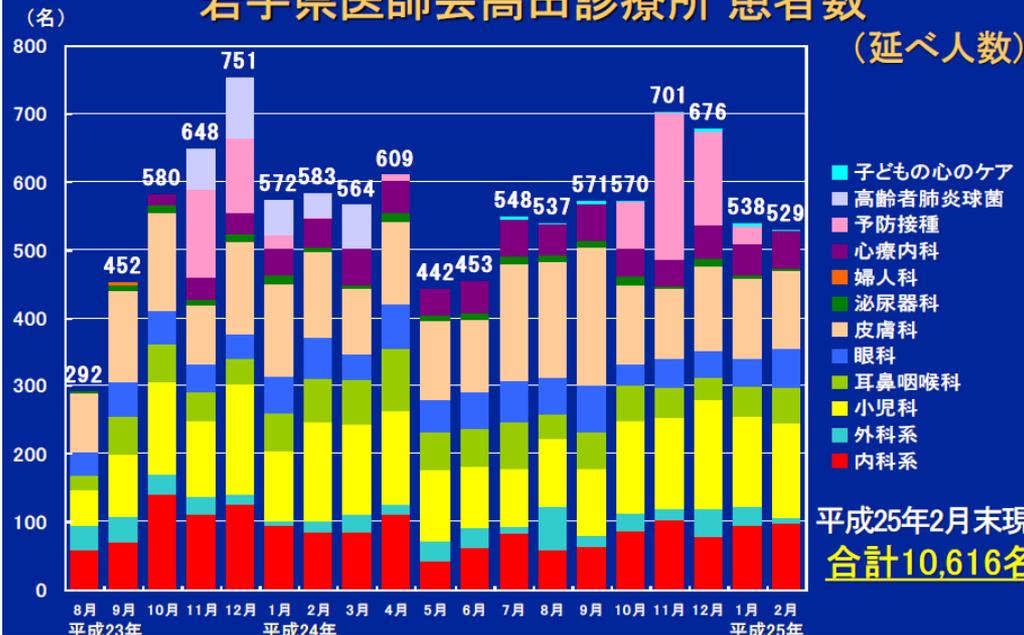


トレーラーハウス
眼科・心療内科

プレハブ
内・小児・外・整形・
耳鼻・皮膚など
全診療科交代制

プレハブ
子どもの心のケア

岩手県医師会高田診療所 患者数



岩手県外からの支援活動

学会HPを通じた岩手県被災地支援公募の実績
“実績なし”から応募数 33件、マッチング率 48%

支援医師募集の継続

小児科学会ホームページ
岩手県への小児科医公募・バナー
H24.2.24～



東日本大震災
について



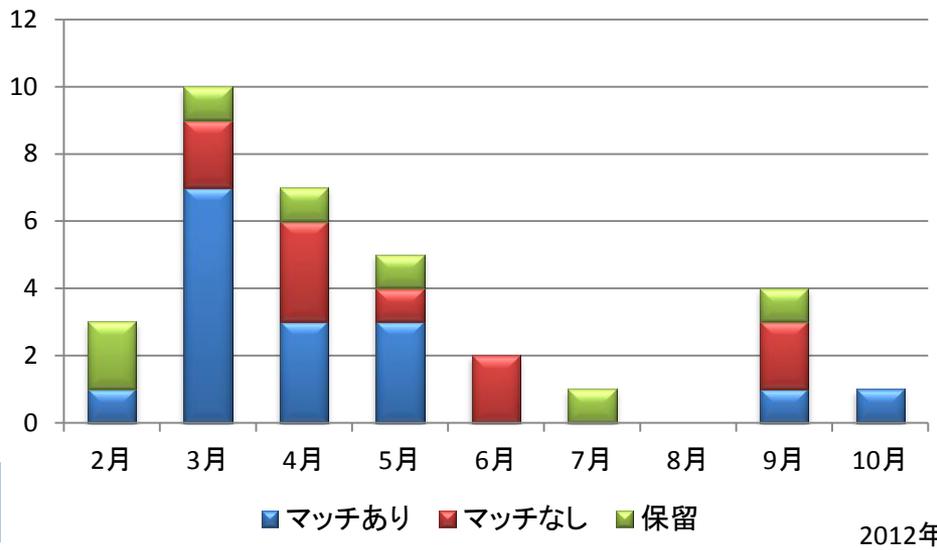
東日本大震災津波被災地への診療応援について(12.2.24)

岩手県医療局では、今回の震災による被災地域のため診療応援して頂ける医師を広く募集しております。

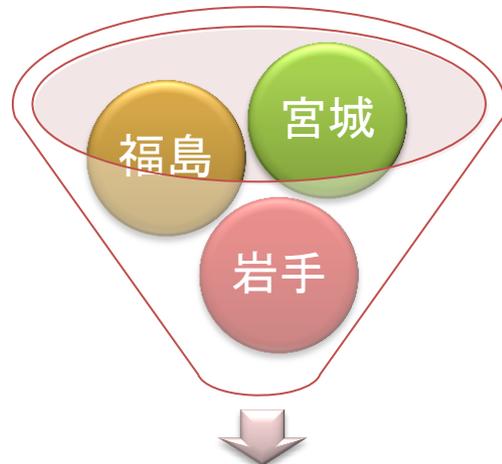
震災被災者への支援のため、医師の皆様のお力をお貸しください。ご連絡をお待ちしております。

岩手県医師支援推進室

<http://www.pref.iwate.jp/~hp0365/>



支援策 : 岩手県のみから被災3県への公募拡大
小児科学会・分科会ホームページへのリンク



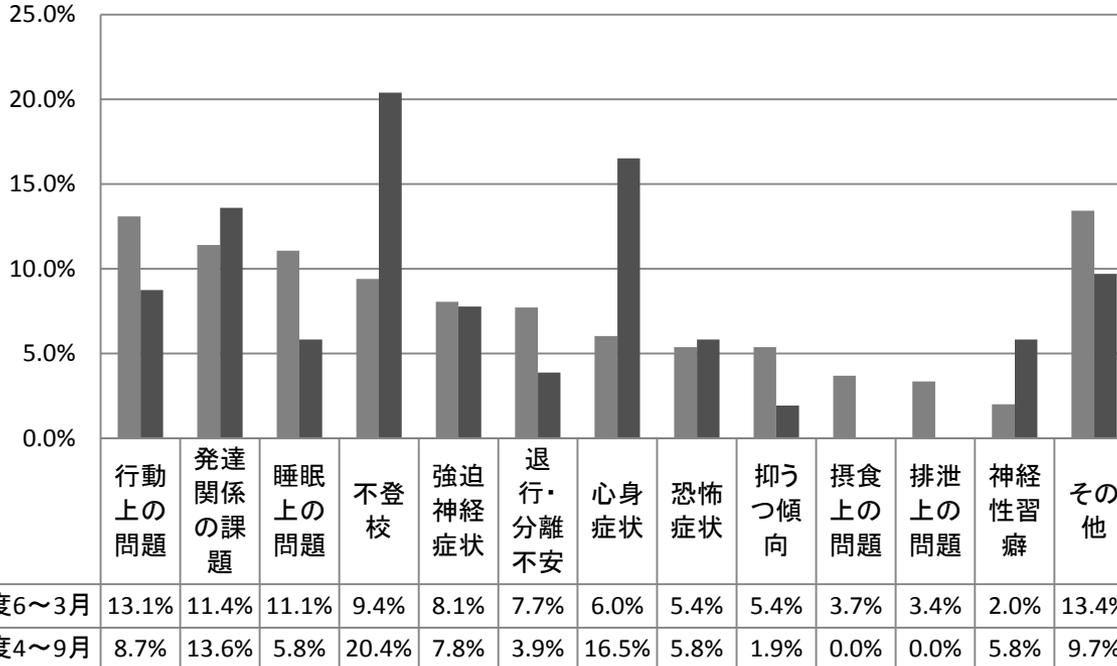
東日本大震災復興新生事務局の創設

子どものこころのケア

	開設回数	延べ児童数	実児童数
H23年6月～H24年3月	85回	287人	108人
H24年4月～9月	57回	193人	70人

	未就学児	小学生	中学生	高校生
H23年6月～H24年3月	22.0%	44.3%	21.6%	12.2%
H24年4月～9月	20.2%	48.2%	23.3%	8.3%

児童の割合



岩手県保健福祉部
児童家庭課資料

仮設 石巻市夜間急患センター

仮設 石巻市夜間 急患センター



宮城県の場合

石巻急患、日赤病院に集中 夜間急患センターは激減 仮設に移転影響か

東日本大震災後、宮城県石巻市の石巻赤十字病院に救急患者が集中している。被災した市夜間急患センターは仮設施設で再開しているが、受診者が激減。軽症者の受け入れを中心に救急医療を支えていた震災前の機能が十分に発揮できていない。本来は高度な医療を担う赤十字病院などは今月、症状に応じて医療機関を利用するよう住民に呼び掛ける。

<負担は重く>

赤十字病院によると、救急患者は震災前、1カ月平均2000人前後だった。震災後は昨年4月の4591人を最高に、ほぼ3000人以上で推移。ことし9月も3309人と2010年同月比で約1.7倍に達した。

一方、市夜間急患センターは震災前、月1000～1700人を受け入れていた。隣接する市立病院と同様に津波の直撃を受け、休診を余儀なくされた。

高台の日和が丘地区に仮設施設を建設。昨年12月に診療を再開したが、9月の患者数は675人と10年同月比で44%減少した。年間でも震災前の6割程度にとどまると試算する。

佐藤仁人所長は「3割ぐらいは減ると思っていたが、予想よりも患者が来なくなった。移転場所が分かりにくいのではないか」と説明する。



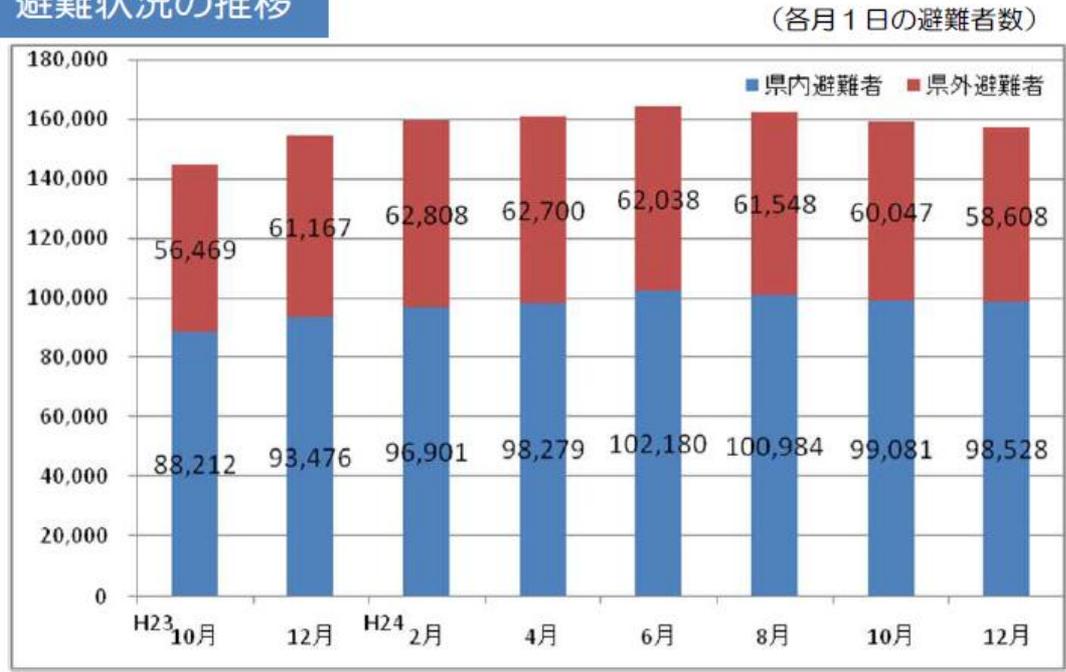
公立相馬総合病院

R ろうきん キャッシュ

福島県の場合



避難状況の推移



【データ出典】福島県災害対策本部

東日本大震災に係る子どもの避難者（18歳未満避難者数）

(単位:人)

		平成24年		増減数 (B)-(A)
		4月1日現在(A)	10月1日現在(B)	
18歳未満避難者数		30,109	30,968	859
避難先別	県内	12,214	3,307	1,784
	避難元市町村外		10,691	
県外		17,895	16,970	△925

※ 10月の調査より県内の同じ市町村内の避難者数も報告に含めている。(4月現在においても一部同じ市町村内の避難者数も含まれている)

被災地(＝過疎地)再生への 小児科医の役割

- 小児医療は地域にとって重要なインフラ
ストラクチャーであり、被災地を「安心して子どもを
生み、育てることのできる街」として再生させる
役割がある。
 - 小児医療、小児保健、福祉、
子どものこころのケア等の提供—
- 被災地が再生するまで長期間の参画。

まとめ

- 被災3県は過疎地域での小児医療体制の再生、小児救急体制の再構築、放射線問題と異なる問題を抱えている。
- 被災3県に共通する問題は震災前から小児医療資源が少ないことであるが、小児科医は地域が再生するまで子ども達に小児医療、小児保健、福祉を提供する責務がある。